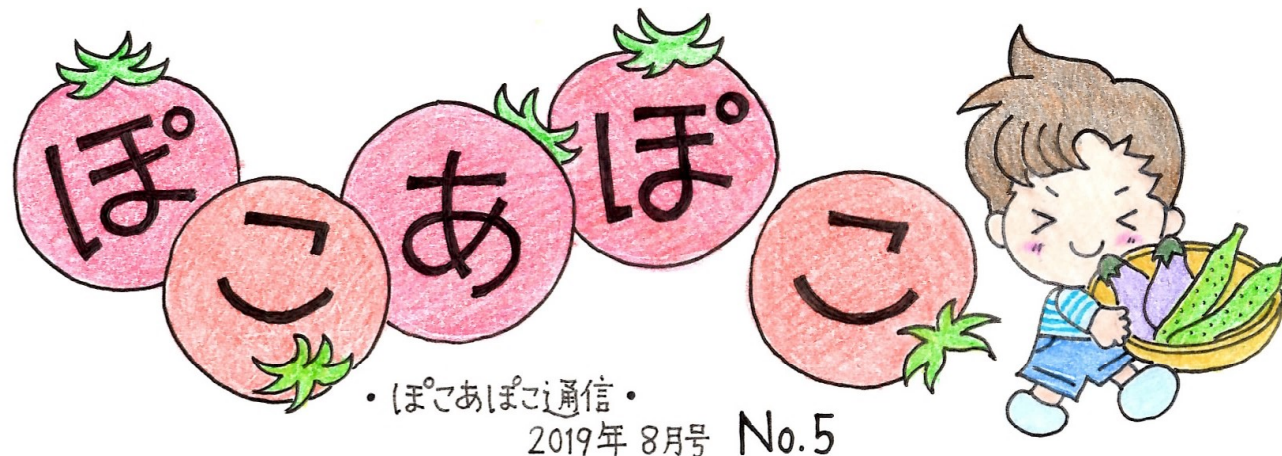




『自立』の ... 「自立」なんて子どもが大きくなってから使う言葉と思ってませんか？
出発点、実は、「自立」のための真実月券負はもう始まっています!!

生涯を決定づけるほどの自立の単独の展開する其期間は、1歳半ごろからであり、3歳になるころまでの非常に短い其期間です。この短い時間に、自然が子どもに言葉している大切な事を見逃してはなりません。人間は4つの段階（両手を合わせる→月復はいする→四つんばいする→二本足で歩く）を経て歩けるようになります。自分の足で思いどおりに歩ける段階に至って、1つの自立の段階に至り達したといえます。

モンテッソーリも、二本足歩行ができるようになった段階を「1つの自立の段階に至り達したのです。自分でなにかができるというのが自立の獲得の要素だからです。…イ他人の助力なしに、自分でなにかができる、これが自立です。自立があれば、子どもは急速に進歩します。なければ、進歩は遅いのです」といっています。

そして、1歳半の時点で、足の発達と同時に、手の発達にも非常に重要な因子が現れます。力の因子です。この時期に至ると子どもはなんでも角虫りたい、やりたいという衝動にかられるだけでなく、最大限の努力を払って、実行したい、力を全部出さねばならぬ、発達したい、克服したいと望むのです。

例えば…物を持つて歩く、月宛いっぱいにかかえて歩くという子どもの姿には、「歩く」「足を動かす」ことがうれしくて、「歩きたい」「足を動かしたい」という衝動と、「月宛いっぱい」の物を持つことで、その月宛の力を楽しているのです。月宛いっぱいのものを力を出さねばならぬ、持つことに喜びを感じるようになったこの時期こそ、

二本足歩行と手の動きが協働し、力という要因が現れ、子どもが「自立」する出発点!!と言えるのです。

1歳半から3歳になるまでの其期間は、活発な環境の探索活動と、あきらめことなく続ける繰り返しの活動をして、基本といえるいろいろな活動の仕方と能力を身につけます。基本的な活動が、正確に

できるようになることは、自立していくことでもあります。では、基本的な活動とは?? それを正確にするためには

二本足歩行以前の段階の、やっと^は、自分の体を移動させ、手を伸ばして「つかんだり、落としたり」

し始めた子どもの活動力をみると、人間はどんな活動を基本として自由に活動するのが見えてきます。

「だうこしたりするから子どもは歩けないのです。子どもに代わってなにかをやっけてあげたりするから子どもはなににもできないのです。人生の出発点からすでに子どもに劣等感を与えてしまっているのです。」

～モンテッソーリの言葉より～

小さな子どもほど、かわいがることはとても大切なことです。子どもが「愛されている」と感じることで、深い安定感になるからです。しかし! 「大きくなったら自然に自分でできるだろうから、今はかわいしい、なんでもしてあげる」というのはまちがっています。自分の手や指先をどのように使うのか、工夫しながら、やりながら、上手に使えるようになっていく時期に、大人が子どもに代わってやってしまうと、指先などがうまく使えないだけでなく、使えないという劣等感を生じさせ、それは、さらに「する」意欲をくじき、態度を萎縮させてしまいます。

自分の手と目を協働させ、意識を集中し、ごく基本的なことができるようになる時期に、大人が代わってやったりして十分できなかった子どもは、結果的には不幸になってしまうのです。

物を「つかむ」「握る」ということは、ごく小さい時期から本能的に備わっていて、運動力としても大切な要素なのですが、こうして興味のあるものに向かっている、何度も繰り返すことによって手や指、月宛の関節などがもっと重くようになり、使えば使うほど発達していくのです。「つかむ」「握る」などの段階から始まって、子どもは自分の体の器官が完成し始めるや、それに半分の機能を発揮するために、環境の中で自分の体を使うことのできる機会をみつけては、さまざまな活動力をはじめます。

・落とす・はがす・入れる・つまむ・開け閉めする・ひく・運ぶ・押す・回す・転がす・移すなど、このような子育ての過程で、だれもが日常茶飯事として見すごしたり、苦笑して見ていたり…、または、不思議に思っていた、この子どもの姿こそが活動力をやりたがっているという証拠なのです!!

「やりたがっている」ということは、そのような重き方を言い承め、それに熟達しなければならぬのです!! これからの長い人生を自分で体を動かして、手を使いながら生きていく…その基本となる重きとは、実は、こんなことです。これら基本となる重きの1つ1つが正確にできるごとに、子どもの自立の程度も一歩ずつ正確なものになっていきます♡

1歳半～3歳のこの期間は、自立への歩みが正確に進み始める大事な時ですから、子どもの活動力の1つ1つをよく見る目をご家庭でも持っていただきたいと思います。

そして、子どもの活動から、ヒントを得て、子どもがその活動力を力いっぱいやり抜き自立していく過程をご家庭と当教室で連携して援助していきましょう♪

暑い夏も、体調を崩さず元気で過ごせるように、毎日の生活リズムを崩さず、整えましょう!!

この季節にしかできない遊びや体馬食もたくさんさせてあげてください♪